

東日本大震災から2年が経過

国 労 水 戸

国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 大和田亨
編集責任者 坂本公則



被災者の復興支援をすすめる

東日本大震災と福島原発事故の発生から2年が経過したが、被災3県の復興は未だ進んでいません。仮設住宅で2回目の冬を過ごしているにもかかわらず、住宅建設は道半ばです。福島第一原発事故によって被災した人々を支援するための

「子ども・被災者支援法」が昨年6月に施行されたが、未だその対象地域の設定さえ行われず、具体的施策は遅々として進んでいません。いまこそ震災からの早期復興と脱原発の実現にむけた取り組みを強化しなければなりません。

職場・地域の活動に自信を持ち、引き続き、組織拡大に全力をあげよう！

2013年度「夏季手当獲得の闘いの整理」にあたって

今夏季手当の闘いは、田村社長の「賃金抑制」発言、今年度の新人社員への「賃金減額」の手紙の郵送など、「会社内外を取り巻く環境は非常に厳しい」との事業計画を前提に、期末手当の大幅な削減を意図する噂が先行するなど、かつてない異常な状況での闘いとなった。1・1カ月の回答は、会社自らが示した「年間3カ月は生活給である」との

交渉経過を反故にし、社員犠牲を一層押し進める姿勢に他ならない。本部は、本日(7月5日)、闘争指示に基づく夏季手当の闘いについて、一定の整理を図るものの、引き続き年間を通じた期末手当獲得、賃金抑制を断じて許さないために奮闘する決意である。全国の組合員の2013年度夏季手当における要求実現に向けた奮闘、創意工夫した取り組みに改めて感謝しつつ、「2013年度夏季手当」獲得の闘いの整理にあたっての本部見解とする。

第2回国労フクシマ交流会を7月7日、いわき富岡地区を中心に福島第一原発事故の避難地区と津波による被災地の視察を行いました。仙台地本8名、水戸地本6名の計14名が参加しました。2台の車に乗り富岡駅に向かい、車窓からは楢葉町の常磐線と国道を間の敷地に、黒い袋詰め汚染廃棄物が無数に並べられていました。富岡町に入ると、人の気配はなく車から降りると鳥の鳴き声だけが聞こえ静かな雰囲気でした。

富岡駅舎は、跡形もなく線路が残っているだけで、線路には流された車があり、赤錆びついたレールと雑草で覆いつくされてきました。駅を後にし6号線を夜ノ森方面に向かうと、バリケードと警備員の制止され車

中の線量計は、2・85マイクロシーベルトを計測してしました。その後、久ノ浜・薄磯・豊間地区の沿岸部を視察し、2年4ヶ月が経過しても復旧復興が進まない現実を目のあたりにしました。いわきに戻り交流会を行いました。いわきに帰り交流会を

行い、大和田委員長よりJRは広野以北への開通が現実味にきている。危険を冒してまで鉄路を延ばすことは政府の狙いがある。今後とも色々なテーマで脱原発・震災復興などで交流を続けたいと挨拶を受けました。

国労議員団でいわき市議のかりの光昭議員より「東電福島原発事故から2年を振り返って」と題し講演を受け意見交換を図りました。特に、原発廃炉除染・健康管理・損害賠償の4つに絞って、取り組みの報告を受けました。

最後に、仙台地本五十嵐書記長より今日は貴重な体験ができました。仙台と水戸支社の対応の違いがハッキリし、保障や健康問題について、国やJRを逃がさない為の法整備や私たちの要求をし続ける運動が重要。今後も交流を続けながら、私たちの力や組織拡大に繋げていきたいとまとめて頂きました。いわき駅前現場を移し、冷たい生ビールで乾杯した後、自己紹介と感想を受けながら交流を深めました。